



花かつみの里 2024



No. 36

たてわり班対抗なわとび大会

1月16日(木)の「うねめタイム」に、体育館で「たてわり班対抗なわとび大会」を行いました。



全校生がたてわり班にわかれて、下記の方法で、なわとびの跳んだ回数を競いました。

- ① 一人一人の1分間に跳んだ回数を数える。
- ② 各班の跳んだ回数の平均を求める。
- ③ 平均をもとに順位を決める。



次は「なわとび記録会」

1月24日(金)に「なわとび記録会」を行います。



子どもたちは今、体育の授業や休み時間に、なわとびの練習をがんばっています。

保護者の皆様も参観できますので、ぜひ応援をよろしくお願ひいたします。

詳しくは1月9日付の「なわとび記録会について」のお知らせをご覧ください。

～ちょっとだけ参考になる話～

選択肢問題の心理！



学校で行うテストの中には、正しい答えを記号や番号で選ぶ**選択肢問題**が多く含まれています。テストの後には「時間が足りなくなったので、最後の方は**カン**で選びました」という声も多く聞かれます。

この**選択肢問題**について、**おもしろい実験**の話を読んだので紹介します。

<実験>



幼児に、大きさ、形、色、つやなど、そっくりの果物を2つ渡して、「さあ、どっちか一つをあげるよ」と言って選ばせる。

実験の結果は、「**迷って迷って迷ったあげくに迷う**」ということになるそうです。

しかし、その2つに何らかの差があるときは、ほとんど迷わなくなるそうです。

例えば、<実験>でミカンを用いるとき、一方のミカンの緑色の星形の部分をとっておくと、ほぼ間違いなく**星形のある方**をとることなのです。

この話を読んで、私は昔聞いた**ある話**を思い出しました。

それは、**選択肢**の中に「**ちょっと**」という言葉がついたものに、**子どもの支持**が集中するということです。



例えば、理科で「ろうそくは・・・①燃える、②ちょっと燃える、③消えるのうちどれか？」という問題が出たとすると、②を子どもは支持しがちだということです。子どもが**選択肢**の中から1つを選び出すとき、ろうそくが「燃える」と「消える」という相反した答えから1つを選び出すだけの**情報が不足**したとき、子どもはその問題とは本質的には無関係かもしれない「**ちょっと**」という言葉に**着目**して選ぶのではないかということです。

ちょうどミカンの**星形**が**選択**の理由になったように。

余談になりますが、①～④までの**選択肢**の中から1つだけ選ぶ問題では、③が**正答**である確率が**一番高い**そうです。参考までに・・・。

